

学修成果に関する調査項目一覧(ルーブリック評価)

	ディプロマシー ポリシーにおける 位置付け	項目	I	II	III	IV	V
1	1	赤十字の 基本原則の理解 (規範の行動化)	赤十字の基本原則について 述べることができない。	赤十字の基本原則について 述べることができる。	指導の下に赤十字の基本原則に 基づく行動をとることができる。	状況に応じて赤十字の基本原則 に基づく行動をとることができる。	自ら率先して赤十字の基本原則 に基づく行動をとることができる。
2	1	倫理観	人間としての尊厳と権利を 尊重・擁護する観点から、 倫理原則を説明できない。	人間としての尊厳と権利を 尊重・擁護する観点から、 倫理原則を説明できる。	整えられた条件下で、人権を擁 護する行動をとることができる。	状況に応じて、当事者主権の立 場から人権を擁護する行動をと ることができる。	自ら率先して専門的立場から 看護や生活の中で人権を擁護す る行動をとることができる。
3	2	多様性理解	多様な文化背景・価値観を持つ 人々がいることを受け入れること ができない。	多様な文化背景・価値観を持つ 人々がいることを受け入れること ができる。	多様な価値観に関心を持ち、自 分の価値観との相違を受け入れ ることができる。	多様な価値観を持つ人々に対 し、その価値観を尊重しながら、 交流できる。	人道の精神に基づき、多様な価 値観を尊重しながら共感的に関 わるることができる。
4	2/8	語学力	与えられた課題に対して、外国語 で読み書きすることができない。	与えられた課題に対して、外国語 で読み書きすることができる。	与えられた課題に対して、外国語 で聞き話すことができる。	状況に応じて、外国語を用いた コミュニケーションをとることが できる。	自ら率先して看護や生活の中で 語学力を活用できる。
5	2	共感的態度	他者の言動や態度、感情に関心 を示すことができない。	他者の言動や態度、感情に関心 を示すことができる。	自分の感情をコントロールし、 他者の立場に立って考えること ができる。	他者の言動や態度、感情を理解 した上で、共感を示すことができ る。	他者の言動や態度、感情を受容 し、思いやりある行動をとること ができる。
6	2	コミュニケーション (自己表現)力	他者との関わりの中で、自己と他 者の相違を理解できない。	他者との関わりの中で、自己と他 者の相違を受け入れることがで きる。	自分の適性や能力を把握し、自 信や自己肯定感をもつことがで きる。	言語的及び非言語的な表現方法 を活用し自分の思いを適切に伝 えることができる。	意図的に治療的コミュニケーション 技術を用いて、援助的人間関 係を構築できる。
7	3	専門知識力 I (対象理解)	一人の人間が身体的・精神的・ 社会的な側面をもつことを説明で きない。	一人の人間が身体的・精神的・ 社会的な側面をもつことを説明で きる。	一人の人間の身体的・精神的・ 社会的な側面からの理解を生活 過程と関連づけることができる。	一人の人間の生活過程・家族背 景を踏まえて、全体像を描くこと ができる。	一人の人間は分けることのでき ない統一体で、変化する存在で あることを説明できる。
8	3	多視点統合力	看護現象は多様で複雑な側面を 持つことについて説明できない。	看護現象は多様で複雑な側面を 持つことについて説明できる。	演習において、看護現象の多様 で複雑な側面を関連づけて説明 できる。	実習において、看護現象の多様 で複雑な側面を関連づけて行動 できる。	実習において、自ら率先して看護 現象の多様性・普遍性を追求で きる。
9	4	問題発見・解決能 力	必要な情報収集を行い現状を理 解し、生じている問題に気づくこ とができない。	必要な情報収集を行い現状を理 解し、生じている問題に気づくこ とができる。	現状を分析し、問題解決のため の方法を考えることができる。	問題解決のための計画を立てて 実施し、必要に応じて解決方法を 修正できる。	問題解決の過程を振り返って考 察し、次の問題発見・解決に活か すことができる。
10	4	専門知識力 II (看護過程)	看護の方法としての看護過程に ついて説明できない。	看護の方法としての看護過程に ついて説明できる。	演習において、看護過程を用い て情報を収集し、アセスメントを 行うことができる。	実習において、看護過程を用い て看護診断を行うことができる。	実習において、看護過程を用い て看護実践を行い、評価すること ができる。
11	4	論理的思考力	他者の意見や物事を客観的な視 点で捉え、事実と意見を区別でき ない。	他者の意見や物事を客観的な視 点で捉え、事実と意見を区別でき る。	客観的な事実から問題の原因に ついて仮説を立てることができる。	仮説に対し、論理的な意見や結 論を導き出すことができる。	導き出した意見や結論について、 様々な視点から批判的な検証方 法を考えることができる。
12	5	専門知識力 III (看護技術)	原理・原則に基づき基礎看護技 術を説明できない。	原理・原則に基づき基礎看護技 術を説明できる。	演習において、基礎看護技術を シミュレーション事例へ適用して 実施することができる。	実習において、健康問題に対す る人間の反応を把握し、基礎看 護技術を対象に実施することが できる。	実習において、基礎看護技術を 対象の個性に合わせて創意工 夫して実施することができる。
13	5	安全管理能力	事故防止や事故発生メカニズ ムに関心を持ち、環境や作業上 の危険を予測できない。	事故防止や事故発生メカニズ ムに関心を持ち、環境や作業上 の危険を予測できる。	危険予知トレーニングを通して、 日常生活の中でリスク感性を身 につけることができる。	予測される危険に対し、事故発 生を防止するための適切な対策 について考えることができる。	自ら率先して安全管理のための 行動を取り、アクシデントの防止 策を考えることができる。
14	5	専門知識力 IV (地 域活性化/対象と役 割の拡大)	地域社会における保健・医療・福 祉の分野で看護が担うべき役割 を説明できない。	地域社会における保健・医療・福 祉の分野で看護が担うべき役割 が説明できる。	看護の対象を個から集団に拡張 して考えることができる。	演習において、地域の特性理解 と地区診断ができる。	実習において地域の特性理解と 地区診断を行い、多職種連携の 必要性を説明できる。
15	6	社会的能動性 /協調性	社会・集団の中で自分の果たす べき役割を考えることができない。	社会・集団の中で自分の果たす べき役割を考えることができる。	自分の属する集団の中で、他者 と協力しながら協調的に行動す ることができる。	自分の属する集団・組織の中で、 リーダーとしての役割を遂行す ることができる。	状況に応じて、自ら集団・組織を 作り、他者と協調的に活動す ることができる。
16	6	知的好奇心	社会現象や授業内容に関心を持 ち、意欲的に学ぶことができない。	社会現象や授業内容に関心を持 ち、意欲的に学ぶことができる。	既修の学びを発展させ、新しい 知識・能力の修得に関心を持つ ことができる。	既修の知識・能力を看護や生活 と関連づけ、活用しようとする意 欲を持つことができる。	既修の知識・能力を発展的に活 用し、社会の中で役立てようとす ることができる。
17	7	自律性	与えられた課題を理解し責任を 持って取り組むことができない。	与えられた課題を理解し責任を 持って取り組むことができる。	与えられた課題に見通しをもって 取り組み、期限内に間に合うよう に実行できる。	自分の責任を自覚して必要な目 標を設定し、実現のために計画 を立てることができる。	目標の実現に向けた計画を主体 的に設定・立案し、積極的に遂行 できる。
18	7	情報収集・活用力	PC等を活用して、メディア等、多 様な情報源から必要な情報を入 手できない。	PC等を活用して、メディア等、多 様な情報源から必要な情報を入 手できる。	多様な情報の中から信頼でき、 かつ目的に合った情報を取捨選 択して収集できる。	PC等を活用して収集した情報を 整理・分析し、自分の考えの根拠 とすることができる。	図表化するなど、収集した情報を 効果的に活用して自分の考えを 分かりやすく説明できる。
19	4	創造的思考力	幅広い教養や知識を身につけよ うとする意欲をもつことができない。	幅広い教養や知識を身につけよ うとする意欲をもつことができる。	既修の知識と関連づけて物事を 考えることができる。	既修の範囲を再構成し、柔軟に 物事を考えることができる。	既修の範囲にとらわれずに物事 を柔軟に考え、新しい発想を出す ことができる。
20	8	国際性/異文化理 解	書物やメディア等を通じて異文化 に触れ、自分が所属する文化と の相違を説明できない。	書物やメディア等を通じて異文化 に触れ、自分が所属する文化と の相違を説明できる。	異文化と自分の所属する文化に おける相違を深く理解し、受け入 れることができる。	異文化を体験的に理解した上 で、相違を受け入れ、尊重するこ とができる。	異文化を理解・尊重した上で、国 際的視野に立って看護について 考えることができる。
21	6	意見交換・調整力 (ニーズ把握力)	議論や話し合いの場で他者の発言 に関心を持ち、受け入れることが できない。	議論や話し合いの場で他者の発言 に関心を持ち、受け入れることが できる。	他者の発言の意図を理解した上 で、自分の考えを伝え、意見交換 できる。	他者に内在している思いの表出 を促し、意見交換の場をとりまと めて円滑に進行できる。	健康ニーズを把握するために、 意見交換に意図的に介入し、相 互理解や合意形成を図ることが できる。
22	9	予測力/推論力	身のまわりでどのような危険の可 能性があるか予測/推論すること ができない。	身のまわりを観察し、危険の可 能性がある箇所を把握すること ができる。	危険箇所に対して、危害が及ば ないよう事前の対策を思考するこ とができる。	身のまわりでどのような危険の可 能性があるか予測/推論すること ができる。	発災時に起こり得る事象に関し て、他者と情報共有し、被害を最 小限に留めるよう行動することが できる。
23	9	教育的思考力	人と関わる際に、教育的思考力 を働かせることができない。	人と会話を通じて心身状態を 確認することができる。	他人の必要な状況を読み取り、 適切なアドバイスをすることが できる。	集団の中で他人と連携し、集団 の目的を達成することができる。	人と関わる際に、教育的思考力 を働かせることができる。